

[成果情報名]ラベンダー「城南1号」の加温、長日処理による開花促進効果

[要約]ラベンダーのオリジナル品種「城南1号」は、自然低温遭遇後1月下旬頃から2月下旬に最低温度15℃の温室に入室し、同時に長日条件（深夜電照4時間）にすることにより、発蕾・開花枝率は高くなり、開花期も自然開花期より約1ヶ月早くなる。

[キーワード]ラベンダー、長日、開花促進

[担当]農林技術開発センター・農産園芸研究部門・花き・生物工学研究室

[連絡先]（代表）0957-26-3330、（直通）0957-26-4319

[区分]花き

[分類]指導

[背景・ねらい]

県内で育成されたラベンダーのオリジナル品種「城南1号」の鉢物栽培において、通常、5月下旬から6月上旬に開花が始まるが、需要期である「母の日」（5月上旬）までに出荷するためには、4月下旬に、蕾が着色している状態にする必要がある。発蕾・開花には一定の低温が必要であり、低温遭遇後の加温開始時期と長日処理が開花促進に及ぼす効果を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「城南1号」は11月上旬より自然低温に遭遇した後、1月21日から2月20日に最低温度15℃の加温を始め、同時に電照による長日処理（深夜電照4時間）を始めると、発蕾・開花枝率が100%と高くなり、開花日は5月上旬となり自然開花より約1ヶ月早くなる。（表1、図1）

[成果の活用面・留意点]

1. 小花の開花始め日を開花日としているため、5月上旬開花株は実際は4月下旬から出荷できる。
2. 電照により花梗が徒長するため、鉢物として出荷する際は、矮化剤を使用する必要がある。

[具体的データ]

表1 ラベンダー「城南1号」の加温開始時期及び電照が開花に及ぼす影響

加温開始時期	加温中電照の有無	伸長枝数 ／株	発蕾・開花 枝数／株	発蕾・開花 枝率(%)
1月21日	有	8.8	8.8	100
	無	12.8	0.3	2
2月1日	有	8.8	8.8	100
	無	8.3	3.3	39.3
2月10日	有	9.5	9.5	100
	無	6	3.8	62.5
2月20日	有	8.3	8.3	100
	無	10	8.8	87.5
3月1日	有	11	11	100
	無	10.8	8.5	79.1
加温無し	無	9.8	7.3	74.4

①耕種概要

挿し芽：2007年9月10日

育苗：2007年10月10日3号ポリポットに鉢上げ、10月31日まで15℃加温ガラス温室にて栽培。

11月1日より無加温ビニールハウス（サイド常時開放）にて栽培。その後、所定の日に15℃加温ガラス温室に入室。調査は2008年5月13日。

②長日処理方法

夜間4時間（22:00～2:00）電照。電照は白熱灯（100v75w）を棚上約1mの高さに設置。

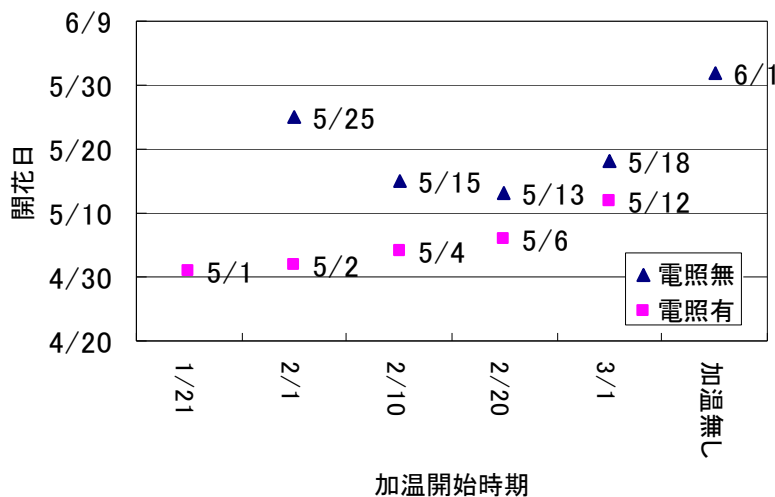


図1 ラベンダー「城南1号」の加温開始時期および電照が開花日に及ぼす影響

注) 開花日：小花の開花始め日

①耕種概要、②長日処理方法は表1に同じ

[その他]

研究課題名：新規導入花きの技術開発

予算区分：県単

研究期間：2006～2008年度

研究担当者：諸岡淳司